

1. 人事配置の在り方について

（北山議員）

先日の総務財政委員会でも聞いてきたことであるが、この前、総務財政委員会で横浜市に行き、大変私どもは感銘を受けてきた。横浜市の状況を見てきて、横浜が一生懸命取り組んでいる国際政治・政策に対する取り組みについて、色々な説明を聞いてきた。その中で国際政策室というものをこしらえて、単に外事を行うだけでなく、国際に関する政策の企画・立案までを行って、外務省や経産省へと職員の派遣や、あるいは海外の韓国だとか、海外の方にも職員の派遣を行って、積極的な交流をやっている。さらにそれを聞いていて、そうかと思って聞いていたら、イスラエルやペルーやフィリピン、こんな所とも都市の協力を進めていく予定でいる。聞いていたら、確かにそういう所と交流をどんどんはかっていけば、国際性豊かなまちづくりは、間違いなく推進していくだろうと思って聞いていた。このような国際都市を推進していくために、何が一番必要かといったら、やはり職員の海外を見る目、海外でどれだけ多くの職員が見てきて、海外の見聞を広めているかである。ファシリティマネジメントで、神戸の財産がいくらあるとか言っているが、人材という財産を間違ってもらったら困る。人材の意識を高めていくと、このことをまず第一に考えていくべきだと私は思っている。今現在やっている海外派遣は、非常に限定的で短期で少なすぎる。こういう所について、もう少し考え直していく必要があると思っているがどうか。

それともう一つ、今回の決算であるが、一時はダイヤモンドという週刊誌に、夕張の次は神戸だと言われたことがあったことを皆さん覚えていると思うが、その夕張の次は神戸だと言われた神戸を、矢田市長は立派に今日まで、立て直すために努力に努力を重ねてやってきてくれた。それには我々市議会も精一杯の協力をしてきたと私たちも自負している。現在では指定都市の中でも中位ぐらいの財政力まで回復してきている。今後市政が新たに展開をはかっていく時であるが、予算や組織だけではなく、人事配置においても、国際や医療産業や、あるいは政策立案などの分野で、質・量の両面で積極的な人員を配置していくべきと考えている。これについて見解を伺いたい。

もう一つであるが、昨日の本会議でも聞いたが、先日オリンピックの開催都市が決まった。オリンピック・パラリンピックは、2020年に東京で開かれることになった。東京にばつと来て東京でゲームをやって、さっと帰るのではない。ずっと前から来て、合宿だとか練習だとかを、あちこちでずっとやる。神戸はいの一番に手を挙げて、神戸に来てくださいと言わなければならない。例えば陸上競技で、王子の球技場を使うのかどこを使うのか知らないが、ボルトでも来て走り回るのだといえれば、ボルトを見たいといって神戸に人がいっぱい来ると思う。そういう風に施設を提供するという事についても考えを及ばせていってほしい。そのために金がいるということになるので、その金は任せておけというぐらいの

ことを言ってほしいと、玉田局長に期待しているがどうか。

#### (玉田行財政局長)

海外派遣が短期で短すぎるということについては、前回の常任委員会でも申し上げたとおり、研修テーマを決めた研修としては、適当な期間ではないかと思う。少し本当に長期でということになると、むこうで、例えばどこかの市役所に行って仕事をするとか、そういうことになれば少しこれまでとは違う形になると思うので、研究させていただきたいと思う。

それから国際関係、医療産業、政策立案などの分野で、質・量ともに重点的な積極配置については、我々はこれまで総数については絞りながら、その中で重点的に配置してきていると思う。「企業誘致」、「観光コンベンション」の体制を強化してきているし、「医療産業・神戸クラスター」、あるいは「デザイン都市」等の戦略的な重点配置も行っている。

今後もこれから出てくる新たなニーズに向けて、重点的な施策・予算が出てくるであろうから、それに伴った人事配置も、難しい考えにはなると思うが、何とかその中でも重点的に配置する努力は必要だと考えている。

それからオリンピック・パラリンピックの練習会場に神戸の施設をということであるが、是非そういう方向で誘致ができるのであれば、していけばいいのではないかと思う。誘致のためにどういう経費がどれぐらいいるのか、まだまだわからないが、当然そういうことを神戸市としてどうやっていくのかというのはこれからの議論になると思うので、大丈夫だということとは言えないが、十分に協議していきたいと思っている。

#### (北山議員)

職員の派遣について、今までは短期であり、短期では本当の実は上がらないというのが私どもの考え方である。どこか海外の市役所に市の職員を派遣するということになれば、それはそれでいいのかもわからないがということだが、向こうの職員も、こちらが出しただけ受け入れたらよいのではないか。そして真の交流をやるべきである。横浜市は今までの姉妹都市や友好都市というものを止め、今後は交流するのだと強く言っていた。私は本当にその方向の方がはるかにいいと思って聞いていた。職員こそ神戸の財産だと、そういう考え方に立てばやるべきであると思う。そこをもう一度考えて返事をしてほしい。

職員を今までは減らすことばかり考えてきている。これはああいう財政状況の中、震災で大きな打撃を受けた神戸にとっては、やむを得なかった処置ではあるが、今となってはその時期は過ぎた。これからは人材に力を入れるのだと、人材に力をつけさせるのだという立場でやっていただきたいということを、もう一度聞いておきたい。

オリンピックは、金は任せておくとそれぐらいのことを言って、全庁的に神戸市にどの競技のどの選手に神戸で稽古・合宿をしてもらおうということを考えて欲しい。神戸は国際都市だと、観光都市だと言っているのです、大きな東京だけがオリンピックの恩恵を受ける

のではなくて、私は東北が一番に恩恵を受けてほしいと思っているし、東北の次は神戸だと、これぐらい考えてやってほしいが、見解を伺いたい。

**(玉田行財政局長)**

私も職員は宝だと思っているし、宝のように磨いていかなければならないと思い、そういう立場で進めている。

オリンピックについては、是非本当に実現するようにしていきたい。色々な部局で共同してやらなければいけないと思うので、今後そういう話は庁内で色々していくことになると思う。その時には積極的に対応していきたいと思う。

**(北山議員)**

職員は宝だ、人材だと言っているのも、そのとおり頑張ってもらいたい。宝も磨かなかつたら宝にならない。磨くために努力をしてほしい。

オリンピックはどの部局がどうするのかわからないが、頑張ると言っているのも頑張ってもらいたい。玉田局長が声を大にすれば出来る。